

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500614		
法人名	株式会社ユニマットそよ風		
事業所名	太田ケアセンターグループホームそよ風(3階ユニット)		
所在地	群馬県太田市飯田町814-1		
自己評価作成日	平成26年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成27年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人のお客様のニーズに応えたサービスの提供をし、安心した生活を送って頂ける様支援しています。日々の変化に気付く等、健康管理にも力を入れています。外出レク、外食レク、買い物、地域の行事への参加等、精神的健康管理にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高層建築内部には、各階ごとに種別の異なる高齢者サービス事業所が開設されており、3階と4階フロア全体がグループホームである。事業所は、1ユニット6名の少人数制である。エレベーターを降りると介護の理念が目にとまるとともに、ひな人形や梅の花の飾りが飾られている。建物入口には花壇を作り、草花を育て花を咲かせることで、地域の人々が気軽に立ち寄れるような雰囲気づくりに努めている。また、個別の希望に応じた外出支援を行っているが、外出支援の回数を今以上に増やす計画と実施に向けた話し合いや、職員人数の調整に努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500614		
法人名	株式会社ユニマットそよ風		
事業所名	太田ケアセンターグループホームそよ風(4階ユニット)		
所在地	群馬県太田市飯田町814-1		
自己評価作成日	平成26年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成27年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人のお客様のニーズに応えたサービスの提供をし、安心した生活を送って頂ける様支援しています。日々の変化に気付く等、健康管理にも力を入れています。外出レク、外食レク、買い物、地域の行事への参加等、精神的健康管理にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づき、職員間でその理念の共有を図っている。	「地域社会の中で、笑顔で暮らせるあたたかい家庭」を理念とし、大きな文字で目につきやすい所であるエレベーター前等に掲示している。職員には、この理念に至った経緯を説明している。職員の利用者に接する姿勢や言葉かけは、理念を実践に活かすべく指導されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や外食をひとつの行事とし定期的に行っている。近隣の飲食店も協力的な対応をしてくださる。	玄関先に花壇を作り、草花を育て花を咲かせることで、地域の方々が立ち寄ってくれることを期待している。いきいきサロンへの参加、小学校から行事への案内、毎月1回の隣の飲食店での誕生日会、近くの市民会館までの散歩等が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度においては職場体験等の機会がなかったが近隣中学の運動会やクリスマス会などにも声掛けしていただくこともあり可能な限り参加させていただく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの内容や、事故、苦情、行事の報告をさせて頂き、ご家族様、民生委員、区長、市役所の方々の御意見を参考にさせて頂きサービスの向上に活かしている。	事業所からのヒヤリハット・事故報告、活動報告の内容で、耐震性のことや火災時のスプリンクラーの設置の確認、外部評価について、参加者からの質問や意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では市の担当者が参加している。また、月初めにはセンターの空き情報等の情報を提供している。	利用者の様子や、居室の空き状況などを報告している。市担当者からは、いきいきサロンの誘いや、他地域の文化祭・作品展などの情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解はしているものの、身体拘束ゼロへの課題が残されている。	身体拘束に関する法人の研修会に参加した職員による勉強会が行われている。定期的に全体会議を行い、研修している。現在のところ、利用者がベッドから降りようとして床に足をつけるとセンサーが鳴る仕組みのものを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての内部研修、外部研修への参加、職員同士での声掛け、話し合いにより防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の外部研修に参加、理解を深め、必要な方は利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約、入居解約、料金改定等時にはご家族、ご利用者様との面談や電話及び文章等での同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、職員が近況報告をしながら、ご家族様の要望を聞く機会をもうけている。運営推進会議での意見交換でも有効である。玄関に意見箱を設置している。また、ケアプラン更新の際には要望をお聞きしている。	意見箱の設置をしている。家族の来所時には、利用者の普段の様子を伝えるとともに、意見等を伺っている。意見は、家族からの「指摘事項ノート」を作り、全職員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中で問題点、提案などを常に聞き、部署会議、ユニット会議、個別面談を通して具体的な運営方法についての話し合いを行っている。	管理者は、職員からの外出支援を今以上にするための提案や車いす利用者のスムーズな出入りのための入浴室の入り口改造の意見など、提案や意見を受け入れ、実施にむけ努力している。また、会議以外の夜勤時などにも職員からの意見を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時には個別面談等を実施し、個人目標、課題、目標に対しての具体的な取り組み方法などの話をしている。また、年1回給与水準の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には外部研修や社内研修の参加を推奨している。具体的に参加者を指名して行う場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険事業者協議会での研修会や役員会に出席し、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前に面談等実施し、アセスメントを行なう中で相手の意見を確認する。またカンファレンスを通してご本人の要望を取り入れ、職員が情報の共有をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での問い合わせ、施設見学、入居前の面談において段階的にお話を伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	段階的に話を伺う中で、本当に必要なサービスについての見極めを行っている。また、具体的なサービス名や施設名等もお伝えする事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の必要とする立場や人として、いつでも接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご家族からの要望と共にアドバイスなども頂き、入居者様を御家族様と協力しながら支援していけるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブで自宅をみたり、地域の行事への参加で馴染みの人との関係を継続する事ができている。	散歩やドライブがてら自宅を見に行ったり、お使いの化粧品の購入に以前から購入している商店を利用したり、話題がでた友人に電話したりするなど、本人本位の支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係性を把握し、時には職員が間に入り関わりを持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば必要な対応をとるよう、施設として行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の記録、観察から計画作成担当者を中心に様々なアセスメントを実施し、その把握に努め、本人本位のケアに努めている。	日常的な会話から聞くこともあるが、言葉での表現が無理な場合は、家族の訪問時に、生活歴などを伺っている。把握した情報・アセスメントを基に、本人本位の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	計画作成担当者を中心に様々なアセスメントを実施しその把握に努めている。またご家族や近親者からの情報収集に努めておりセンター方式の利用もしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	計画作成担当者を中心に様々なアセスメントを実施しその把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングと定期見直しをしている。介護計画作成の流れは、担当職員が介護支援策計画表を評価し計画作成担当者に提出して、モニタリングとアセスメントを基に計画作成担当者が作成した素案をケアカンファレンスで検討し決定している。	利用者担当制であり、担当職員が中心となり、普段の利用者の様子や状態の変化を把握し、緊急性のある場合は、計画の見直しをその都度行っている。原則3ヶ月毎にモニタリング、カンファレンス、ケアプラン見直しを行い、現状に即したケアプランの作成をしている。家族には、モニタリング用紙とそよ風通信・ケアプランを渡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りの中において、その都度実践した内容の見直しを行ったり、サービスの追加がないか等検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なサービスの可能性について勉強し、柔軟な対応が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサロンや行事、ボランティア等を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医に受診しているが、協力医が4週間に1回訪問診療していることから、全入居者が協力医に受診している。受診結果は家族に伝え、申し送りノートに記載し全職員が共有している。また、訪問看護師が週1度訪問し入居者の健康管理にあたっている。	家族、本人の承諾を得て、協力医の訪問診療を受けている。協力医は、24時間連絡がとれるようになっている。3ヶ月に一度採血を行い、健康維持に努めている。他の診療科への受診支援は職員が対応し、受診結果は訪問診療と同じように家族に伝え、記録して全職員が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週1回来訪し、入居者の心身の状態について把握に努めて頂いており、24時間連絡が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の指示の元入院先についても考慮している。入院中はこまめに面会に出向き、本人の状態の把握や身の回りの世話にあたっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為を伴う場合は入院対応としている。重度化した場合は状態の変化に伴い、協力医の指導のもとに家族と管理者が話し合い家族の希望に沿った支援に努めることとしている。	医療行為を伴う場合は入院としているが、重度化や終末期ケアのあり方については、協力医・家族・職員の話し合いが重要であると考えているが実施にはいたっていない。	事業所の方針を明確にするとともに、具体的な介護方法や職員の看取りに対する理解と方針の共有が図られることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	過去に発生した事故や緊急時の対応について検証を行ったり、研修を実施し実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月中旬に消防署夜間を想定した総合避難訓練を行なう予定である。運営推進会議の席で地域役員の方々に緊急時の際の援助要請を行う。災害用に食品と飲料水の備蓄を行っている。	災害時の避難訓練の実施が、具体的に計画されているとともに、職員の役割や避難経路、集合場所の共通理解がされている。また、民生委員、近隣の保健センターへ協力依頼を行っている。食料品や飲料水等の備蓄も数日分用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修に接遇研修を行っている。職員間で話し合いながら入居者一人ひとりの誇りとプライバシーを尊重する支援に努めている。	接遇に関する研修を受けている。排泄用品類は、人目につかない所を選び保管している。また、着脱介助などでは、一人ひとりに合った方法と言葉かけで行っている。特に、汚れてしまった場合や失禁した場合には、自尊心を傷つけないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の思いを理解し、常に自己実現に向け支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活のリズムを保ち、本人の意思の元支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝や入浴後の整容やその日の気分にあった身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房との連携をとり、なるべく入居者の好みを取り入れた食事の提供を行っている。時にはその日の気分で食べたいものを摂っている。	朝食においては、食材の買出しから事業所の台所で調理が行われている。昼食と夕食は、厨房で調理されたものが運ばれてくるが、盛りつけは職員と利用者で行っている。献立表は事前に配布され、利用者の好みで選ぶことができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の状態に応じて柔軟な食事の提供を水分の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助により毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けや誘導によりなるべくトイレで排泄が出来るよう支援を行っている。	トイレ付きの居室であり、声かけや誘導支援によって自室のトイレで排泄を行っている。排泄チェック表の作成により時間誘導による声かけが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食事の改善、運動を取り入れスムーズな排便を促すことが出来る。必要な方には薬の服用もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りやすい時間帯などを選び、時には仲の良い方同士での入浴を行っている。	1人入浴を原則としており、いつでも入浴でき、外出前日や受診日前日に入浴するなど、利用者本意で支援している。現在、夜間(午後7:00)入浴を行っている利用者もいる。職員と会話を楽しみながら、一緒に歌を歌いながら、ゆず湯や入浴剤で香りを楽しみながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度に静養を取り入れながらコントロールしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報には全職員が目を通し、薬の変更などは申し送りの徹底に努めている。その際の状態の変化などは、詳細に記録に残し職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	したい事、出来る事はなるべくして頂き役割を持ちハリのある生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来る限り、外出できるよう支援しているが、頻度は少なくなっている。	食材の買出しには、利用者に声かけを行い、利用者と一緒に買い物へ出かけている。また、天気の良い日は近くの公園に行き、季節ごとに咲く花を觀賞している。本人の希望と家族の協力によって、毎月息子のところへ外泊している利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訴えのある方に対しては出来る限りの希望を叶えられるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については家族の了承のもと、行っている。手紙は出来る範囲内で渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るよう努めており、落ち着く雰囲気作りを行っている。	午前中に、廊下や食堂兼居間などの共用空間と居室の掃除を行っている。居室の掃除は、利用者のその日の状態に応じて、自力や見守りで行っている。ホールには、梅とひな人形が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を数箇所置き、気分に応じて移動が出来るよう環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものが置いてあり、本人の希望に添うよう配慮している。	馴染みの物の持込みは、自由である。ソファやテレビのある部屋、本人の作品のちぎり絵が飾ってある部屋など、本人と家族の意見・要望が採り入れられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物は取り除き、自由に移動できるような環境づくりを行っている。		